

# B

病弱教育部門  
重複障害教育課程

## Classroom を使用した実践

○Classroom (オンラインツール) を使用し、B 課程では、普段の授業で学校に登校する児童生徒と病棟にいる児童生徒をオンラインでつないで、離れた場所でも一緒に授業をおこなっている。

### 【取り組み】

- ・体調面等の理由により病棟の判断によって行事や校外活動に参加できなかった児童生徒に学習保障をおこなった。
- ・Classroom を使用して、「修学旅行」や「みかん狩り」の際に、オンラインの画面越しではあるが、一緒に景色や活動の様子を視聴した。



### 【実際の活用の様子】

#### 修学旅行

- ・ベッドサイド学習中心の児童のため、画面を通して普段聞くことのできないバスの音を聞いたり、車窓からの景色を見たりした。その際、児童はタブレット端末の画面を注視しており、教員の説明もよく聞いている様子だった。
- ・修学旅行の様子を見ている時に、病棟の方々に「どこ行ってるの～?」「今、何してるの～?」等声をかけていただき、いつもとは違う賑やかな雰囲気を味わうことができた。

#### みかん狩り

- ・児童はみかん狩りに行けなかったことをとても残念がっていたが、オンラインをつないで様子を見た際は、身を乗り出して画面の様子を見る、教員との画面越しのやり取りに笑う、一緒に見ている教員と会話のやり取りをする等楽しむことができた。
- ・後日みかん狩りの振り返りで動画を見た時にも、友だちと一緒に写った画面越しの自分を見て笑顔になっていた。

### 【まとめ】

- ・病棟と学校という限られた環境の中で生活しているB課程の児童生徒にとって、画面越しであっても、普段と違う様子をリアルタイムでつなぎ、楽しさを集団で共有するということは、児童生徒にとって、とても刺激になる経験である。オンラインの良さを活かし、今後も継続していきたい。

## B

病弱教育部門  
重複障害教育課程

## 振動スピーカーを使用した授業実践

### 【振動スピーカーとは？】

- ・手のひらに乗る位のサイズで、本体の底で触れている面に振動を加えて共鳴させることで音を鳴らすタイプのスピーカー。音と同時に振動が身体に伝わる。
- ・Bluetooth®でつなげて、タブレット端末から音楽を選択できる。
- ・窓や机、バルーンなどにつけるとより振動が伝わる。
- ・高音よりも低音の方が響きが良い。

### 【児童生徒の実態と振動スピーカー導入のねらい】

- ・聴覚優位である。
- ・音楽や琴の音色に反応する場面が見られた。
- ・マッサージの際に、軽い圧を加えても嫌がらず、受け入れることができた。



4月に関わり始めてから実態を把握しつつ、どのような教具が生徒にとって分かりやすく、効果的で、快につながるか、学習につながるかを考え、学習に取り入れた。

### 【実際の活用の様子】

- ・「ふれあいリラックス体操」や「ブラッシング体操」などの音楽に合わせてマッサージをおこなっていた。その後、振動スピーカーを使用した。最初は「何だろう」という感じでスピーカーが当たっている場所に顔を動かさず動きが数回見られた。脈拍も少し上がって緊張している様子が見られたが、繰り返すうちに筋緊張が入らず、心拍数も安定し、受け入れている様子が見られた。
- ・マッサージをおこなう以外にも、ロックやポップス、クラシック音楽などを音と振動で感じ取っている。賑やかな曲だと眼を開けて感じ取っている様子が見られるようになってきた。

